平成30年度　第3回

第38回「関東地区会」定例研修会

主　催：日本人間関係学会　関東地区会

実施日：平成30年9月22日（土）14時～17時

会　場：**越谷市サンシティホール　第３小会議室**

担 当：白石　京子

**本年度テーマ：「分断・孤立からの関係創生」**

**－関わりをつなぐ可能性を見出す－**

**「ﾋｭｰﾏﾝﾘﾚｰｼｮﾝ･ｽｷﾙﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ(Human Relation Skills Training)＝HRST」**

**本会の小テーマ**

**「子どもの発達と親子・家族関係　支援現場におけるさまざまな課題と支援」**

資格研修（更新）講座（選択講座Ｂ‐1）

**＜趣旨＞**

　近年、乳幼児精神保健領域における子育て支援の広まりと共に、親子・家族の関係性にも焦点をあてた支援の重要性が指摘されている。生後一人では生きていけない乳幼児は、養育者の手厚い養護と保護を受けて、養育者との関係性の中で成長・発達していく。子どもの心身の状態は生物学的組織を基盤とするが、その一方では、親子・家族との関係の有り様といった環境要因によって大きく影響を受ける。発端が子ども側にあって、親子の相互作用が繰り返される中で、親側との関係が加わることになるため、その調整を行う必要が出てくる場合がある。

現在、母親にかたよる子育ての負担、育児の孤立が叫ばれ、「育てにくさを感じる親に寄り添う支援」が重点課題となった。親にとって子育てが負担になったり、親の生活そのものを大きく乱したりする場合は、子育てに否定的になり、一層育てにくさを感じてしまうことも想定される。子育て中の親が、育児に対して少しでも余裕と自信をもち、親としての役割を発揮できる社会を構築するためには、どのような視点や支援が必要であろうか。そこで、今回の研修で相談事例を紹介し、心理劇（関係心理劇）で関わりの可能性を模索していきたい。

**＜展開＞**

**Ⅰ部 テーマに基づく話題提供　　（話題提供者：白石京子)**

＜乳幼児健診とは＞

乳幼児健診では、育児不安を抱えた親への心理相談を行い、養育不全や虐待につながる可能性を早期に発見し、親子関係の問題に対して、予防・対応することが主眼となる。又、乳児の病気や発達の遅れを早期に発見し、対応できる環境への筋道を立てることもねらいである（杉本2016）。そのため、乳幼児健診は保健師・医師・栄養士・看護士・歯科衛生士・心理士のチームで実施し、把握漏れがないように工夫されている。

心理相談は親の心理的安定を図るのが目的であるが、親が具体的な見通しを得て心理的に安定すれば、育児意欲が高まる構造があることから、結果的に子どもへの支援にも繋がる。具体的な内容としては、親が日常生活で気になっていることや悩みを聞きとり、子どもの行動観察を通して、普段の親子の関わりに触れ、親子関係の改善に繋がるようなアドバイスを行う。中には、夫婦関係などの家族関係の問題を抱えている例もあり、心理相談の現場は、子育て支援の最前線と言える。

＜背景＞

乳幼児健診は、1965年に制定された母子保健法に基づく事業で、同年には3歳児健診が、1977年には1歳半健診が全国の市町村で実施されるようになった。この間に、個別相談を担う心理相談員の配置も進んでいった。2001年からは、心理相談員の配置が法制化され、育児不安を抱える親へのこまやかな相談・援助を目指し、育児不安に対する心理相談、親子のグループワーク等、育児支援対策が強化された。その後2015年には、「健やか21（第２次）」が始まり、乳幼児健診においては「育てにくさを感じる親に寄り添う支援」を重点課題として、親子それぞれが発信する様々な育てにくさのサインを受け止め、丁寧に向き合い、子育てに寄り添う支援を充実させることを目標とすることとなった。

田丸尚美（2010）乳幼児健診と心理相談

**１．＜子どもの育てにくさにつながる複数の要因**＞

A．＜子どもの気質・特性、発達、行動反応のパターン等の課題＞

子どもの要因として、未熟児、過敏、癇癪が強い等がある。これらに対処するために、相談では親とともに以下の事柄を実施する。

①発達の道筋（各段階、個人差、順序性、方向性。各部分で異なる時期に異なる割合で発達する）を伝える。

1. 子どもの発達を促すため親の関わり方や遊びの工夫を伝える。
2. 子どもの環境調整について一緒に考える。
3. 子どもの発達に課題があった場合は、対応の仕方や関係機関の情報提供を伝える。

B．＜親の気質、生育歴、育児に関するストレス、子どもの行動の受け取り方等の課題＞

親の要因としては、親の気質、成育歴、不慣れな子育て、子どもの行動の受け取り方、病気等が挙げられる。これらへの対処としては

①他児と比べないで子育てをする。

②子どもの発達の有り様に気づき、言葉かけや関わり方の工夫を一緒に考える。

③親自身の感情と行動を整理し、コントロールの方法を一緒に考える。

C．＜家族の関係、仕事・経済の課題＞

家族との関係性としては、夫婦関係の悪さ、祖父母の子育てへの過干渉等が挙げられる。また仕事や家計などの経済的要因も、育てにくさの間接的な原因となりうる。これらへの対処としては、以下の対策が考えられる。

①子どもだけではなく、親の発達を「家族の発達」という視点から捉え、夫婦間の役割調整の方法を考える。

②子どもの発達を中心にした、祖父母との相互協力の調整を伝える。

③仕事の継続や再就職について、一緒に考え、問題を整理し、必要な情報を提供する。

④生活設計を一緒に見直し、不要な支出を整理する。

D．＜ソーシャルサポート、社会的資源の課題＞

環境の要因としては、ソーシャルサポートや地域の社会的資源の認知の低さ、養育環境の悪さなどが挙げられる。結果として親は育てにくさを感じがちであり、その気持ちを受容し、対応策を考えるのが重要である。

①乳児健診・予防注射についての情報を提供する。

②育児サークルなど、育児に関する社会資源の情報・活用を紹介する。

③近隣の母子との交流のきっかけを提供する。

④養育環境の改善について話し合う。

２．事例検討

３．意見交換

・子育て支援の仕事をしているが、育児に困難を抱えている親が通ってきている、また、困難を抱えていることに気がついていない親もいる。

・普段やっていることを、きちんと整理して学んだことで、課題が見えやすいと思った。

・現実の場面で、泣きながら子供に怒鳴っている親を見かけた場合、どのようなかかわりをしていけばいいのかを考えていきたい。

・自分は子育て世代を卒業したが、今考えると、子育て支援に携わることは大変なことだと思う。

・昔と違って、親と子しかいないように感じる。地域はかかわっているのか。街の中で、子ども達は遊べているのか。

・様々な子育てを考える時に、全体的な視点で考えることは必要で、今回はそれが取り上げられていると思う。整理されていてわかりやすかった。

・子どもの育てにくさを考える時に、親自身が愛着が形成されていないからなど言われるが、過去のことを言われては親自身の参考にはならないことも多いので、今後うまくいくようにかかわっていく必要があるだろう。

・親自身が育てにくいと気付いていない人もいる中、育てにくいということに気付いている人は、良くなるチャンスだと思う。

・「ゆとり」を育てることが、子育てを支援することに繋がるのではないか。

・普段はあまり見かけないが、夏、地域で子ども御輿や地域の子ども会との交流に参加し、地域にこんなにたくさん子ども達がいるのだと改めて感じた。

・６月に虐待で死亡した子供のニュースを見たり、「万引き家族」の映画を見たりして感じたことと。今回の研修で学んだことが重なった。今の家族が抱える課題が浮き彫りになっているように思う。「社会の子ども」という視点を考えながら聞いていた。

・保健センターで早期に発見できて、そこで保護者が真剣に考えて対応すれば、その後とても良くなるが、そこで真剣に向き合わないと問題がどんどん大きくなるのだろう。教育で、家族とはどういうものかをもっと教えていかなければならないのではないか。

・様々な家族があるので、学校では、家族とはこうあるべきだという教育が難しい。

・家族が抱える子育ての問題を、関係構造図で表すと問題が整理しやすくなる。課題は１つではなくいくつかあり、柔軟なアプローチが必要になる。

・図にしてみると、とてもすっきりした。１つ１つ整理して、課題が見え、そこで対応する。うまくいく、いかないはあるが、自分の切り口をもつために必要だと思う。

・事例２の関係図は、自分の中でとらえていくのが難しかったので、後半で体験を交えながら考えていきたい。

**Ⅱ部　話題提供に基づく心理劇的場面の構成**

**(監督：杉本太平・補助自我：白石京子)**

＜子育てに困難を抱えている家庭の心理劇＞

1. 母親のモノローグ

　上の子どもの言葉が遅くてイライラする。下の子どもも、発達が遅くてイライラする。うまく育っていなくて辛い。夜も寝られない。夫も手伝ってくれない。一人でどうしたらいいのかわからない。

1. Ⅰ部で分析した課題をもとにして、それに沿ってかかわる人（支援者）を設定してかかわる。
2. 父親との関係

母親に支援者（A）が父親との関係促進や前向きなコミュニケーションがとれるようにアプローチする。

1. 子どもとの関係

母親に支援者（B）が上の子に対する母親の気持ちを受容しつつ、上の子との関係促進や関わり方の可能性が見出せるようにアプローチする。

1. 地域との関係

母親に支援者（C）が地域のおける母親の居場所作りの可能性が見出せるようにアプローチする。

1. 子どもに対する専門的な支援

母親に支援者（D）が子どもの発達に関する母親の心配や不安に対して専門的なケアが受けられるようにアプローチする。

1. その人自身への働きかけ（心理劇の展開の中で提案された新たなアプローチ）

母親に支援者（E）が母親自身への労りや勇気づけと子どもや夫への認識や捉え方について修正（リフレイム）ができるようにアプローチする。

1. 母親役の、相談を受けての感想。

　一番心に残ったのは、専門的な支援だった。医療関係につなぐという具体的な道筋が見えた。公園も同じ時間帯でなくてもいいんだ、行ってみよう、と思えた。また、自分自身への働きかけについては、そうだ、こんな感じ方やこともできるのだな、と思った。

1. 母親に、「勇気の小びん」の空気のプレゼント。「いやだな」と思うことがあったら開ける。煙が出てきて前向きな気持ちになれる。

**Ⅲ部　シェアリング・まとめ**

・見ていて、相談者の話し方、話の内容で母親の心が動いているのがわかり、支援者と

して学ぶことが多かった。

　　・課題が整理されているので、支援がやりやすかった。やはり自分の中で課題を整理

して話すのは大切だと思った。

　　・母親の主訴をしっかりとらえていかないと、短い検診の面談でとりこぼすことがあ

るのでは。

　　・母親が抱いている夫像を少し変えられるような働きかけもあるだろう。

　　・自分の中の答えを引き出すような話し方が大切だということがわかり、その話し方

を学ぶことができた。

　　・目に見えない悩みを、目に見える形にしていくということが、一つのアプローチと

して有効なのではないかと思った。

　　・外に出るというのは、公園だけではないのだと思った。母親の居場所を探すことが

大切なのではないか。

　　・同じ悩みをもつ人たちのグループに所属するのもよいのではないか。

　　・自分の本音をさらけ出すことのできる仲間を探していくのもよいのでは。

　＜杉本監督から＞

　　答えは一つではないと思っているので、いくつかの課題を見つけ、その中でどれがその人に合っているかをみつけていくようにしている。カウンセリングの方法も一つではないと思うので、色々な方法を知っていることが必要だろう。その上で、その人にはどれが一番合っているのかを見つけていくことが大切なのではないか。

以　上

**＜次回　定例研修会のご案内＞**

**開催日：平成30年11月10日(土)　14時から**

**開催場所：越谷市サンシティホール　第1小会議室**